

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400129		
法人名	株式会社アガペ		
事業所名	グループホーム アソシエ飯倉		
所在地	福岡市早良区飯倉5丁目21-4		
自己評価作成日	平成28年1月23日	評価結果確定日	平成28年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

皆の憩いの場であるよう、職員がチームワークと連携を以て業務を行っている。また小規模多機能との併設により物的、人的交流ができグループホーム単体だけでは難しいことも協力して行える点。そして職員一人一人が理念にある「共に笑い共に楽しむ」という意識で笑顔ある職場作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「アソシエ飯倉」は早良街道から一本路地を入った住宅街の一角にある、小規模多機能と複合型の2ユニットグループホームである。調剤薬局を展開する法人を母体に持ち、福岡県内外で複数個所の介護施設も運営されている。開設から5年を迎え、最近入居者とも一緒になって周年祈願を行った。併設型の利点を生かし、運動会、夏祭り、クリスマス会などの行事と一緒に楽しみ、福祉車両を利用しての外出もされる。日頃も本人の希望を取り入れ、職員が過度に手を出さずに、調理補助や洗濯物たたみなど一緒にやることを大事に、出来ることに取り組んでいる。入居者も共同生活を楽しみ、職員も自然と笑顔に溢れるケアを心掛けている。管理者を中心に若い職員も多く、今後も地域を支える事業所として、益々の活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念の唱和を出勤スタッフ全員で行い、理念を理解し共有することで介護現場での実践につなげている。また利用者様に聞こえるように唱和することで理念を実践するという自覚と責任感を持ってもらっている。	法人理念と事業所独自の理念があるが、独自理念をもとに共有し、理念唱和は習慣づいており、各フロアに掲示したものを読み上げている。理念にある「共に笑い、共に楽しむ～」という部分を大事に入居者に対する対応を職員自身で考え、一緒にすることを実践しており、職員にも馴染みが出てきた。入社時の本部研修で理念に関しても伝えられている。	今後は理念にある「地域との繋がり」も深めて、具体的な活動につなげていったり、年度目標などで地域交流も作成して意識的に取り組んでいってはどうか。職員自身の目が外にも向けられていくことにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会費を納め、夏祭り等に利用者様と参加させて頂いています。また、年末の餅つきに地域の方が飛び入りで参加されるなど地域との繋がりが少しずつできてきました。	以前から町内会に加入し、小学校の夏祭りには、入居者と一緒に参加しており、今年度初めて餅つきを企画した。散歩のときの挨拶をきっかけにハンドベルのボランティアを受け入れも始まり、町内会の要請があって地域の方向けに講習会をさせてもらい見学にもつながった。去年はなかったが、アソシエ祭には地域の方にも案内、招待もしている。	地域のお便りで案内される町内会活動の清掃や、行事に入居者を含めて参加されることが期待される。町内会長も協力的なので、事業所からの行事案内も積極的に行われても良いのではないだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のスタッフがボランティアで介護に関する講師を勤め、地域社会への還元を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、会議を開き、利用者家族の要望、不安、悩みなどを引き出し、施設職員、包括の職員、民生委員など様々な立場から相談、助言を行う。そこで出た施設、スタッフへの意見要望などはミーティングで話し合い改善している。	併設の小規模多機能と合同で開催していたが、12月からはそれぞれの運営に関してじっくり話すために個別開催をするようになった。地域包括、民生委員の方が参加しており、町内会長は案内していたが参加はなかった。家族には全員に案内し、多い時は7家族来られた。案内時に要望欄も設け、介護講習会の希望があり勉強会も行った。参加者からの意見や提案なども多い。議事録は家族全員に郵送で報告する。	地域参加を増やすために、町内会長には個別に電話でも声掛けも行き、今後の定期的な参加につながることを期待される。避難訓練などの同日開催で様子を見てもらったりするのも良いのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市から見学に来られた際、事業所の実情や状況を伝えるなど情報交換を行い協力関係を維持、構築できるよう取り組んでいる。	市のモデル事業として指定されていることもあり、要請で見学を受け入れることもある。以前は生活保護の方の入居もあり、問い合わせをいただくこともあった。届出に関し質問がある時には市の担当課に連絡し、丁寧に対応してもらっている。運営推進会議も毎回案内し、年に1回程度は参加もされており、何かあった時の連絡も積極的にとっている。	地域部会の情報を収集し、参加の検討。役所と関わる機会を作ってはどうか。広報誌の報告なども検討されたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で身体拘束の勉強をし、身体拘束のない介護を目指して取り組んでいる。夜間以外の施錠をせずに自由に動ける環境作りを行うよう心がけている。	外玄関は自動ドアだが、今は挟む込み防止のため、手動にしている。センサー設置もあり、外出希望のある時は見守りや付き添いで対応しており、施設に備え徘徊ネットワークにも入っている。基本的には拘束をしない方針で、転落の危険がある方にも床にマットレス敷で対応した。拘束とスピーチロックは別個で勉強会を行い、意識づけをおこなっている。	今後は外部研修にも参加し、拘束行為に関しての理解がより深められていくことにも期待したい。

H28.2自己・外部評価表(アソシエ飯倉)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待について学ぶ機会を作り、何が虐待かを理解してもらうことにより、虐待防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様に成年後見制度を利用している方がいるので、制度の理解に努めている。	成年後見制度の利用が2名おり、入居後に、身寄りの少ない方に対して、成年後見制度の案内をして、後見人を立てた。外部の後見人を立てている方もおり、やりとりを通して理解を進めている。資料やパンフレットを玄関に準備し、自由に持って行ってもらえる。毎年権利擁護に関する内部研修も行い、理解を進めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行い、理解、納得して頂いている。改定の際も、運営推進会議で提案をし、その後全家族に説明書、同意書を配布し納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一度運営推進会議を行い、全家族に参加を呼びかけ、管理者、職員に意見を言ってもらい、その意見を参考に運営を行っている。	家族も協力的で、面会に来る方も多く、遠方の方には個別にお便りを送ることもある。面会時や、運営推進会議に意見をもらうことも多く、行事を予め知りたいとの要望があり、年間計画の作成につながった。また、食事のメニュー希望もあり、対応を検討している。対応に関しては議事録の郵送によって全員に報告している。	家族が気軽に来れるような企画を検討し、さらに関わりを深めていってはどうだろうか。また、担当者による個別報告を、系列他事業所の事例なども参考に実現されることが期待される。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者出勤時は、申し送りに必ず参加し、職員の意見を聞いている。また、申し送り表も活用し意見を伝えてもらっている。	毎月の事業所全体のミーティングがあり、基本は正社員のみでの参加で、パート職員は議事録の回覧で内容の確認をしている。会議前に職員アンケートをとることでテーマや情報共有も行き、行事委員の企画から取り組みにもつなげている。管理者が現場に入っていることで、日頃からも相談しやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心、スキルアップの意識をもてるよう内部研修、外部研修を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	現在職員の年齢層は20代から60代までいて、それぞれが経験や能力を活かして生き生き勤務しています。性別に関しても半々に近く、性別が採用に影響を与えないよう心がけている。	男女の職員もバランスよく配置され、小規模多機能の職員とも協力的に勤務し、調理専任の職員も配置されている。手作業や裁縫が得意な職員の能力も活かし、行事ごとに催し物を企画して職員も楽しみながら取り組んでいる。外部研修の案内があり、希望があれば参加することも出来る。休憩時間の確保、スタッフルームもありメリハリをつけて勤務されている。	外部研修の案内はあるが参加はできていない。今後は積極的に参加機会を作り、スキルアップにつなげていくことが期待される。

H28.2自己・外部評価表(アソシエ飯倉)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修にて人権擁護、接遇、言葉使いについて勉強会を行っている。不参加の職員にも資料の回覧を行い人権活動、啓発活動に努めている。	今年度は、法務省人権擁護局が発行する人権擁護資料を使って、資料回覧、読み合せを行った。認知症実践者研修の受講者も1名おり、内部での資料回覧もしている。	今後は市の人権啓発センターを活用して、DVD視聴や講師派遣などを行い、事業所としての人権教育や啓発活動に取り組んではどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修、内部研修、社内研修、外部研修に参加してもらいスタッフのスキルアップを行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の際や他グループホームとの相互訪問を行い施設外の意見を聞くことで、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居、契約、アセスメント等にて本人の話を傾聴し、思いや要望を知ることが出来るようにしている。また入居の際、荷物整理を手伝ったりして信頼関係を築ける様努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、契約時に家族の不安や心配、要望等をききとり、本人、家族の要望に沿ったプラン作りを行う事により信頼を得れるようにしています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学时、面談時、契約時に本人、家族の要望をききとり、どの様なサービスを必要としているかを判断しその人に合った支援を行うよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に買い物、洗濯、調理、掃除をすることにより介護されるだけではなく、お互いが支えあい、信頼しあえる関係づくりを行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には、生活状況を報告し本人の現状の把握を行ってもらっている。また、必要時は電話にて報告、相談をし面会に来ていただいている。行事にも参加してもらい、思い出の共有を図っている。		

H28.2自己・外部評価表(アソシエ飯倉)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出で馴染みの場所に行ったり、手紙や葉書、電話での交流の支援を行っている。それにより馴染みの関係が途切れないよう努めている。	近隣からの入居で近所の友人が遊びに来ることがある。個別支援で馴染みのある場所に連れて行ったり、家族の支援で行きつけの美容室に行く方もいる。家族が遠方の方には、自分の携帯電話を使ってやり取りを支援したり、友人知人とも手紙をやり取りする方もいる。一時帰宅、外泊の際は家族に介護手順伝えて支援し、知人の病院のお見舞いなどすることもあった。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、関係性を把握し、場合によっては間に入り、利用者同士が関わり合い支えあえるような支援を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、家族、本人と連絡を取り相談を受け、必要時支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーション、定期的な聞き取り、困難な場合は家族への聞き取りを行い、本人らしい生活の在り方を職員間で検討している。	管理者かケアマネのどちらかが担当し、入居時に家族に基本情報シートを渡して直接記入してもらっている。アセスメントシートの作成は居室担当スタッフが先行し、一年で見直す。意思疎通の難しい方に対しては家族から聞き取り、ミーティングで取り上げて職員全員で話し合っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を家族に聞いたり、日々の生活の中での聞き取りで、支援経過や生活歴、生活環境の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、普段と違う事等を介護記録、実施記録表に記入し、それを参考に現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を聞きとり、それをもとに職員間で意見を出し合いケアの方向性を決めて、ケアプランの決定、変更を行っている。	居室担当を振り分け、サービス内容の立案、アセスメント、毎月のモニタリングなどを担当する。アセスとプランの見直しは随時～一年で、短期プランの見直し時に担当者会議を開催し、関係者からの意見も照会することもあり、見直し時には担当者が意見を出して所内で共有している。日々のプラン実施もチェックし短期目標などのプラン内容を共有している。	担当職員にプランの素案作成などにも関与してもらうことで、関わりを深め、チームケアが推進されていくことにも期待したい。

H28.2自己・外部評価表(アソシエ飯倉)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、実施記録表に記録し、申し送りや申し送り表にて伝達を行い、スタッフ間ですぐに情報の共有が出来るよう努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望、外出希望、病院受診等その日の訴え、希望、状況に応じ職員間で連携し臨機応変なサービス提供を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーに買い物に行き自分で商品を選んでもらう事で、買い物通じて日々の暮らしに楽しみを持っていただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは連絡を密にし、本人や家族の意思や意見が取り入れられるように、家族と病院との間をとりもつ様努めている。	事業所の提携医は往診があるが、今までのかかりつけ医を希望される場合継続も出来る。他科受診の際は基本的には家族に支援してもらい、緊急時などは事業所からの介助も行う。常勤の看護師が勤務しており、健康管理や軽度な処置、医療情報のやり取りなどを担当している。家族とのやり取りはその都度随時行い、医療情報を共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつでも看護師に連絡、相談ができ、介護職の知りえた情報をしっかり記録して、医療や看護の場において適切な対応がとれるように努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人、家族と入院時に密に連絡、相談を行い、その内容をもとに病院関係者と情報交換を行い、早期退院にむけた対応が出来るように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、本人、家族としっかりとした話し合いを行い、本人、家族の希望と、施設側の受け入れ能力との折り合いをつけ、納得して頂ける様努力している。	今までに看取った方が1名いるが、常時医療支援が必要な方の対応は難しく、現在ターミナルの方の受け入れは行っていない。提携医は24h対応もしており、必要時には訪問看護との連携も出来る。現状対応が難しい旨の説明を契約時にしている。	ターミナルケアに関する外部研修の受講も検討していくことで、職員の能力向上に努められることが望まれる。

H28.2自己・外部評価表(アソシエ飯倉)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを作成し、定期的にミーティングにて対応の確認、勉強を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。又、全職員が消火器の場所、使用方法が解かるよう訓練を行っている。	年2回の避難訓練があり、2回とも消防署立ち合いの上で実施し、うち1回は夜間想定で行っている。地域の方にも呼びかけているが、まだ参加はされていない。昨年運営推進会議と同日でも開催したが、訓練とは別個で特に関連はなかった。事業所は2Fだが、外階段もあり、避難手順も整えられている。AEDの設置と、備蓄物は多めに仕入れた食料品を多少確保している。	訓練に地域の方の呼びかけも行い、参加を促すことに期待したい。また、地域で行っている防災訓練への参加や情報収集がされることも望まれる。AED使用に関してなど、救急救命の訓練も受けられてはどうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修にて声掛けについて勉強し、その人の気持ちに寄り添った声掛けが出来るよう気を付けている。又、一人一人に合った対応を行えるよう職員間で連携をとっている。	昨年から、内部研修の中で接遇や言葉遣い、身だしなみなどのコミュニケーションに関して力をいれて取り組み、定期的に学習している。敬語を大切にしながらも、相手によってくだけた話し方にしたり、使い分けもしながら対応している。日頃も気になる言葉遣いなどあった時は随時注意し、対応が統一できるようにミーティングなどで状況も共有している。写真利用に関しては口頭での同意をえて、広報誌などは顔が映らないように配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や訴えを個々にて急かさずゆっくり傾聴できるように、一対一での場づくりを心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランに沿った対応をしているが、その日の気分、体調によって臨機応変に対応を変えている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝整容、身だしなみの支援を行っている。服選びは一緒に行い利用者様の意思を尊重している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の出来る範囲で下準備、配膳、片づけ等を手伝って頂いてる。食事を楽しんで頂くため、好みによって食事形態、メニューの変更も行っている。	法人の管理栄養士が一括でメニュー管理、食材手配を行い、職員や調理専任のスタッフが調理する。希望がある際は個別対応することもある。入居者も役割を持ってメニュー伝達、皿ふきなど手伝えることを手伝い、おやつ作りなど一緒にしている。外食に行くこともあり、好みなども聞いて個別に反映できるように検討もしている。検食担当もおり、担当者は一緒に食事している。	

H28.2自己・外部評価表(アソシエ飯倉)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事を記録し、利用者に合わせた食事(減塩、糖尿、減量)を管理栄養士指導の下提供している。また必要に応じ粥、キザミ食、ミキサー食なども提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け、誘導を行い、必要な方は職員介助にて対応し、一人一人に合ったケアを行っている。(歯ブラシ、スポンジ等使用)		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェックし一人一人に合わせた声掛け、誘導を定期的に行っている。オムツの方も便座に座れる方は座っていただき必要な方には職員介助にて対応している。	トイレが各フロア4か所あり、居室から近いところを利用できる。必要な方に対してのみ排泄チェック表を使い、尿便意があり、排泄行為が自立した方はチェックせず自分でしてもらい、後から確認や聞き取りをしている。失敗の少なくなった人や、汚染がなくなった場合のパット仕様などの改善提案は、日々気づいた職員が行っている。便秘の方にも夜勤者がチェックして医師の指示のもと処置している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別ケアにて歩行、下肢訓練を行い、水分も便秘時には乳製品に替えるなどの対応を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に沿った時間帯に入浴して頂けるよう声掛けしている。又、入浴場所も、一般浴層、機械浴槽を使い分け利用者様の負担にならないよう気を付けている。	1Fは機械浴、2Fは普通浴で、三方向介助できる中央に浴槽が配置されており、状態に合わせて安全に入ることができる。基本的には週2回午前から昼過ぎくらいまでの対応だが、希望されたり拒まれた場合は夕方に入ることもある。お湯は汚れた時などに入れ替え、入浴剤など使うこともある。皮膚観察が必要な場合は看護師が患部の写真をとって医師とも情報共有している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ臥床介助を行い安眠できるように工夫している(湯たんぽ、ベットパット使用、)。又、体位交換時に使うクッションなども睡眠時の姿勢を考慮して使用している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認チェック表を作成し服薬ミスが起こらないようにしている。症状に変化があれば看護師に報告し対応している。薬情をファイル入れ職員に読んでもらっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で毎日手伝いを行って頂いている(食器拭き、掃除、新聞折り、洗濯たたみ等)。個別にピアノや裁縫、園芸などの提供も行っている。		

H28.2自己・外部評価表(アソシエ飯倉)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人希望時は出来るだけ買い物散歩に同行する。外出レクなどは利用者の希望も取り入れ行っている。	希望されれば、10分ほど先のスーパーへの買い物に同行してもらって、買い物を楽しんでもらい、花を買うことを日課にしている方もいる。ドライブも日常的に小規模多機能やデイサービスの車を借りて行い、少人数やユニット単位でも外出している。気候のいい時期は外出レクも企画し、個別ケアでの対応することもある。車いすの方も専用車両を使うことで同じように外出している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の能力に応じ、家族、入居者様と相談し必要額を所持して頂き、希望時必要時に使えるよう支援しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者様は、必要時に職員が手伝ったりしている。手紙や葉書を書かれる利用者様とは一緒にポストに出しに行く。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節、湿度設定等季節に応じて調整している。また季節に沿ったポスターや物を作ったり、設置したりして利用者様が季節を感じられるよう取り組んでいる。	幅広の板材で高級感のあるフローリングに、リビングの南北が大きい目の掃き出し窓になっており、天井も高く開放的で日中は非常に明るい。廊下もリビング中央からまっすぐ伸びているため、歩行訓練も出来る。1、2Fの造りは共通だが、入居者同士の関係も配慮しながら柔軟にテーブルの配置を変えたりもする。ウッドデッキも広めで日光浴を楽しんだり、季節の移り変わりも楽しめる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル、カウンター等その時に応じ使い分けたり、好みの場所に誘導したりしている。食事の際も気の合う利用者様同士で食事が出来るように心がけている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、利用者様と相談しながら物やベットの配置を行っている。また入居の際に出来るだけ使い慣れたものを持ち込んでいただけるようお願いしている。	居室は6~7畳の広さで、介護ベッドとタンスが備え付けられ、季節ものをしまふ天袋も活用できる。使い慣れた家具を持ち込んでおり、マッサージチェアや鏡台などのほか、テレビなど置く方も多い。希望があればマットを敷いて床で休むことも出来る。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内も自力にて動けるように手すりやマットを敷くなど環境整備を行っている。ベットの高さやベット柵の位置も一人一人に応じて変更している。		